明治四十年十一月二十一日　京城新報　(水曜日)　第十一號　(一)

京城新報

●定價表 ▲一部二錢▲一ヶ月前金四十五錢●三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一月金拾貳錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 十月十四日
發行兼編輯人 印刷人 山下英[illegible]
京城西署西小門[illegible]
發行所 京城新報社 電話六六三

論說

銀行集會所に望む

武陽山人

京城の銀行家は昨年來金融會なるものを組織し、一ケ月一回乃至二回相會して營業に關する事項其他一般金融經濟に關する問題を研究討議し來りたるが、韓國經營の發展と金融市場の繁劇に伴ひ擴張の必要を感じ、先頃確實なる規約の下に京城銀行集會所なるものを設立して大に斯業の發達を計ると共に廣く經濟財政の諸問題を考究すべしと傳へらる、吾人は韓國經營の爲め此の成立を祝すると共に又多少の希望あり。

農工商業の發展に多大の援助を與ふる金融機關の業務が改善進步して益其効用を發揮するは最も望ましきことにして、吾人は之れを京城銀行集會所に屬望すること大なり、然れども一般經濟財政に關しては一層の注意と考究とを怠らざらんことを更らに大に希望せざるを得ず、蓋し緣遠きものは等閑に流れ易し、彼の關稅問題の如き貨幣問題の如き運輸交通政策の如き、其他苟くも一般經濟に關係あるものに對しては假令ひ直接影響を來らざる場合なりとも進んで之れを研究し、意見を發表するに吝ならざるを勸告せざるを得ず、其緣遠きが故を以て冷淡に看過するが如きは公共機關の性質を有する同集會所の爲め吾人の切に採らざる所なり、聞く大阪銀行集會所は近く現行民法商法中不備の點に關し調査したる意見を其筋に建議する筈なりと、吾人は未だ其內容を聞かざれども深く其研究を多とせざるべからず、大阪銀行集會所を以て直ちに京城銀行集會所に比するは聊か無理なるべけれど吾京城の銀行家學識經驗に富める人に乏しからず、現今集會所の會員は日韓銀行八、共同倉庫會社及手形組合なりと聞く、而して其首腦は皆高等專門の教育を受け、數年乃至十數年の經驗を有する人々なること吾人の聞知する所、吾人の集會所に望む所大なる豈故なしとせんや。

寄語す京城銀行集會所よ、京城は官憲萬能の本城なり、民間の意見は可なるも不可なるも一齊に嘲笑に付し去らるゝの傾向多き所なり、吾人は過去の商業會議所を追想して銀行集會所の將來に對する官憲の態度に就き多少の憂慮なきを得ず、銀行集會所たるもの須らく奮勵一番して自ら其鼎を重くせよ、而して後ち初めて優勢なる實業家の後援者たるべく韓國啓發の指導者たるべきなり。

一年雜記

對星樓山人

亡命者歸る

漢城に於ける政變の激潮が、市民の大手を溺死せしむる程に猛烈であつた後、亡命客の一團は南大門より蕭々として日本市街に到着した、時しも八月の夕時雨は夜に入りて生温るく、黑雲古城を壓して天意も亦人事の變を語るが如き夕であつた、彼等は餘り多くの歡迎者なくして到來した。

我儕は市變の激潮に洗はれて十年前の朋友を迎ふることが出來なかつた、回顧すれば歲月流るゝが如し、當年の政變を思ひ出せば此騷然たる政變の間を實に寂然として通過し來れる一團の來客に對して同情を禁しない、今日でこそ有志家は黃金の前に禮拜し、權威の前に崇敬し、一片の謀叛氣すらなくなつたが、十年前に於ては、荒癈せる宮殿を指しては亡國の秋なりと歌ひ、政敵の大なるものに對して慷慨の想を起し、彼著名なる十月八日の事變より二月十一日のクーデターは同情の感激を以て經過されたのである。

斯く申す我儕の心事を語れば、亦自ら其異大の變遷であるが、當年の日本國民は今日の如く帝國旨義を了解しなかつた、彼等亡命者は依然たる韓人であつたにせよ、純白なる高感に觸れて日本に向つて走つたのである。

帝國旨義は日本の發展である、日本の發展は日本の强大である、彼等は其變遷十年の歷史中に於て、屬外交の辭柄に利用せられ又は多大の落魄を忍むで、今や寂然として故山に歸るを得たるは、蓋し想外の幸運である、少くとも日本の幸運に運轉せられて重ねて故鄕の山河を觀るを得たのである、我儕は彼等亡命客たりし舊友に對して何等の要求も質問も關係も有しないが、只だ端なくも十年前の詩的時代の高潮を回顧すれば、現時代の野卑なる、狹隘なる、凡俗なると相比して何か一片の歌を作りたくなるのである、若しも當日亡命客の歸來を細かに歌ひ得る詩才があつたなれば、我輩は外交論よりも政治論よりも、より大なる尊敬を表して讃むべくある。

亡命團の大半は最早過去の人の如く變化した。李完用と李根澤を混觀したるが如き俞吉濬氏は、恰かも鐵道技師を見るかの如くに變化して居る、李容翊の片意地より樹堅かりし張博氏は老衰して一個の老翁と化し去つた、高永喜模型の好人物たる趙義淵氏は更らに好人物に進化し居るとの評判である、我輩は諸君の斯く變化したるを聞いて至大の幸福たることを祝賀するのである、最早此幸福を破らんとするものあれば則ち是亡命者の滅亡である

仁川勞役賃銀(一)

(仁川商業會議所調査)

勞働の賃銀は力役業務の繁閑に伴ふて昂低することは勿論にして力役業務の繁閑は貿易の消長、市況の振否、土木の盛衰工業の弛張に伴ふもの多く大工、石工、煉瓦積、手傳等の賃銀は主として土木の盛衰に關せり陸仲仕沖仲仕等の如きは貿易の消長に關せり韓人夫及擔軍の如きは市況の振否に關せり職工は工業の弛張に關せること自然の理なり要するに勞銀の昂低は經濟上に影響したる各種の事業に依りて定るべきなり此等の見地に基き當港勞働の實況を觀察し一般的標準を調査するに其要領左の如し

(一) 職人

月次	大工(日本人)	石工(日本人)	煉瓦積(日本人)
一月	一、二〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇
二月	一、二〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇
三月	一、二〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇
四月	一、三〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇
五月	一、三〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇
六月	一、三〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇
七月	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
八月	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
九月	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
十月	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇

(二) 力役者

月次	陸仲仕	沖仲仕	韓人夫
一月	一、二〇〇	一、二〇〇	六〇〇
二月	一、二〇〇	一、二〇〇	六〇〇
三月	一、二〇〇	一、二〇〇	六〇〇
四月	一、二〇〇	一、二〇〇	六〇〇
五月	一、二〇〇	一、二〇〇	六〇〇
六月	一、二〇〇	一、二〇〇	六〇〇
七月	一、二〇〇	一、二〇〇	五〇〇
八月	一、二〇〇	一、二〇〇	五〇〇
九月	一、二〇〇	一、二〇〇	五〇〇
十月	一、二〇〇	一、二〇〇	五〇〇

(四) 日稼人

手傳 日給八十錢(辨當持參)
土方 日給八十錢(同)
精米所稼人 日給五十錢より八十錢(同)
白米石拔き 日給參十五錢(同)
素麵括り 一箱五錢(同)

一月は寒氣の爲め事業閑散の狀況にあり從つて殊更に掲ぐべきものなかりしも往々遽成急工のため工事を繼續せるものありと雖も大工石工等は一般に閑散となり勞銀も亦幾分下落に傾きしも工事には京義線改修工事あり新聞埋立工事等のあるありて下級勞働者は割合に需要の方なくし二月は京義線工事の外埋立等の土工其他の工事は中止の姿となりしを以て勞役益閑散に陥りしも三月の初めに於ける當港の大火災は本邦人四百十三人清國人八人韓人十八人西洋人一人の家宅店舗を灰燼に付し其跡取片付け等の爲めに勞役を要し勞働者は多少繁忙を見たりと雖も一時的の需要に止まり一般の勞銀には未だ變動を及ぼすに至らざりし四月に至りては火災地の新築工事は競ふて着手せらるゝに至り殊に氣候も温暖に進み鐵道補修及び稅關埋立工事も開始せられ勞働界は繁忙を訴ふるに至り大工石工等の賃錢は前月より幾分騰貴し職人は容易に得られ難きの情況を呈したり又當附近は是より時さに農事に忙はしく韓人夫の出役するもの漸次減少の傾きあり勞銀には變動なかりしと雖も稍沸底の感ありき此現象は五六兩月に及び家屋の建築は一層盛況を呈し民間の資金は多く固定するの傾きありしも一般勞働者は之れがため生計を潤和ならしむるに至れり

七月に入りては稅關工事、切通道路開鑿、花町裏通りの開鑿及び燒跡新築工事等盛にして日韓勞働者の需要を大にし孰れも繁忙を極むるに至りしも此二三月以來仁川勞役の需要並に賃錢の昂低は端なくも地方出稼勞働者の歸來を促し勞働者の潤澤を來たし勞銀は却て下落を示すに至り八月に至るも前月同樣工事及建築とも尚は盛にして勞銀には變動を來さざりしと雖も勞働者は繁忙の狀態に在り九月に至りては工事は孰れも終末に傾き活氣を減ずるに至れり

右に示したる外力役者及び職人を除き工藝的職工の賃銀は年と共に低廉に傾くを見る是れ日本內地より出稼人の增加するによりて供給に不足を見ず寧ろ次第に潤澤を感ずるに至り從て此等出稼人に碌々遊食すべき資に堪へざるより一日も早く其身を托せんとするの念慮より賃銀の低廉を忍ぶの傾向あるに因るなるべし而れども開港地の習ひとて職工中には所謂渡り者氣質のもの多く品行修まず辛抱出來ずして出入り繁く潤澤なるか如くして時々不足を訴ふることありと云ふ左に當港に於ける此種職人の最近賃銀を擧ぐれば左の如し

職工

職工		賃銀
ペンキ塗職	日給	一圓二十錢より一圓五十錢まで
錻力細工職	同	一圓二十錢
船大工職	同	一圓八十錢
桶工職	同	一圓二十錢
建具職	同	一圓二十圓
經師職	同	一圓三十錢より四十錢まで
疊職	同	一圓二十錢
洋服仕立職	賄付月給	十五圓
西洋洗濯職	同 韓人	七八圓
	日本人	十圓より十三圓
理髮職	同	八圓より十圓まで
靴工	同	十五圓より十七八圓
菓子製造職	同	十二圓より十四五圓
杜氏職(酒醬油等)	同	十三圓より十五六圓
時計屋職工	同	十五六圓
活版植字職工	同 見習	六七圓
	普通	十圓より十五圓
鍛冶屋職工	日給 見習	七八十錢
	中等	二圓

右等職人は技術手工の巧拙と熟練とにより其賃銀に差異あることは勿論にして普通の勞働者とは其趣を異にするものありと雖も中位を標準として調査せしものなり

十月中の京城物價(續)

品名		單位	十月	九月
ホワイトジンク油(二磅入)		罐	五、二〇〇	五、二〇〇
ハバック會社ボイル油(五瓩入)		同	九、八〇〇	九、八〇〇
同(二十磅入)		同	六、七〇〇	六、七〇〇
ウキルキンソン會社(五瓩入)		同	九、〇〇〇	九、〇〇〇
日本製桐油(二斗入)		箱	一三、二〇〇	一三、二〇〇
ゴールタン(同)		同	二、六〇〇	二、八〇〇
同胡粉(十貫目)		俵	二、六〇〇	二、六〇〇
船來バテ(十四磅入)		玉	九〇〇	九〇〇
オールド		個	四三、七〇〇	四三、七〇〇
ハーロー		同	二九、七〇〇	二九、七〇〇
ヒーロー		同	三八、五〇〇	三八、五〇〇
ドラム		同	三三、七〇〇	三三、七〇〇
石油	松票	函	三二、五〇〇	三二、五〇〇
	勝利	同	三三、二〇〇	三三、二〇〇
	錨票	同	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇
牛皮	五六斤廻	百斤	五三、〇〇〇	五三、〇〇〇
	十斤廻	同	四七、〇〇〇	四七、〇〇〇
	十五六斤廻	同	三八、〇〇〇	三八、〇〇〇
牛骨		同	一、七五〇	一、七五〇
牛臘		同	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇
燐寸(猿印硫黃)		噸	一四、五〇〇	一四、五〇〇
日本塊炭	上	噸	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇
	中	同	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇
	下	同	一一、〇〇〇	一〇、〇〇〇
撫煙炭		同	一七、〇〇〇	一六、〇〇〇
同粉炭		同	一五、〇〇〇	一三、〇〇〇
セメント	淺野	樽	六、九〇〇	六、九〇〇
	香港	同	六、七〇〇	六、七〇〇
	小野田	同	六、七〇〇	六、七〇〇
板硝子		箱	七、七〇〇	七、七〇〇
木炭	上	貫	一三五	一三五
	下	同	一二〇	一二〇
薪	上	同	五二〇	五二〇
	下	同	四九〇	四九〇

文苑

黃菊白菊(中)

金子雨翠

日は西に風白菊にひやゝなり
菊咲いて十日あまりの日和哉
人形していやしき菊や赤に黃に
灯あかるき大路に菊をひさぎけり
北に見る富士白砂に菊畑
菊の戸やよき人歸る小提灯
菊活けてよき香炷きし茶室哉
灯ともして白菊の香をなつかしむ
菊の戶に不老の酒もかもす哉
庭見れば菊に限あり日和雲

佳羅丹之幾

玉井南軒

仁川の遊廓の繁昌を見て
櫻島の花の離に打ちよせて
くだけてかへる沖津白波

夏の初めの景
昨日まで花の浮ひし池水に
青葉の影の沈む凉しさ

蟬
かしましく鳴く蟬の音も朝夕は
風にもまして凉しかり兒

伯母の子に鞠を贈るとて
うなゐ兒が數へて遊ぶまり影の
盡きぬ榮わを祈る心ぞ

我身をいましめ、
かつかへりみて
二葉より身は塵の世に埋もれて
木とも草ともわかで朽つらむ

禁煙せし友に代りて
忘れ草根をほりかへしたまきはる
幾世をかけてれもひ捨てけり

禁煙せし友の再び禁煙を初めければ
忘れ草根さへ枯れやばわするとも
わすれがたみの芽をそふくらん

小說

紲のみだれ(九)

永井櫻園

高座ではモタレの長廣が今や得意の妙音を弄して、喝采と聽客を唸らして居る。座頭の清糸は身支度をして樂屋の火鉢の前に座を構へて、清之助を初め四五人の弟子を相手に、密々と話して居る。

『紲ちやん、酒屋は思つたよりかズッと上出來だつたが、サワリの(今の思ひに比ぶれば)からモウ少し節廻を綴りと艷ぽく語つた方が可いね、明日一度れ出で那處の所を稽古して見やう。』

と、清糸が言へば、清之助は嬉しさうに

『然う思つて語つてるのですけれど、奈何も思ふやうに語れないんですの、明日上りますからどうぞ稽古願ひます。』

『先代の綾之助さんも、酒屋が十八番で私も同席して聞いた事もあるが、どうも那の邊がモウ一息と思はれた、那の人でさへ思ふやうに語れなかつたんだから、紲ちやんに然う旨く語れやう理は無いけれど、まあ始めて席へ出てあれだけに語れりや、申分は無い、これほどの人氣が出るんなら、もつと早く出りやア宜かつたのね。』

と、師匠の口から賞められたので、清之助は數百の客に賞められたよりも一層嬉しく例へば無形の月桂冠を戴した如く、太く愉輪に感じた。

高座では長廣が兒軍記の阿古屋を將に語り了らんとする時で、拍手の音が一つ二つ三つ、やがては耳も聾せんばかり起つた。すると清糸は三味線を取上げて調子を合せ初めたが、長廣は汗びつしやりになつて、手拭でそれを拭きつゝ樂屋に入つて來た。

『どうも御苦勞さん……。』

と挨拶した、長廣も笑ひつゝ

『どう致しまして、好い景氣ぢやありませんか、それに清之助さん大した人氣ですよ。』

『今も然う云つてるんですが、れ庇でまあ私まで喜んで居りますの。』

『真箇私共が聽いてゝさへ、惚々するやうな好い調子ですもの、お客の歡ぶのは道理ですよ。どうしてこれまで早く出なかつたんでせう。』

『喉は固から好かつたのですが、これ程に語れやうとは、全く私も思つて居なかつたんですが、這度出して案外に思つたんですよ。何だか先代の綾之助さんが賣出しの時のやうな氣が爲ますよ。』

『真箇今からこの人氣ぢや、壁になつたら甚麼でせう、迚も立つゞく人は無いでせう。』

かゝる話の中に中入も濟み、翌晩の語物の披露も濟むだので、清糸は高座に上つて最も得意とする三十三間堂棟の由來を綿々と語り出した。聽客は清糸の顔を見ると深と靜り返つた。

樂屋では長廣が着物を改めて歸つて往つた後は、弟子連が靜に師匠の語物に耳を傾げて居る。折しも仲賣の女中が入つて來て

『清之助さん、ちよいと……。』

と、手招して小蔭に呼んで、密々と寸時く囁き合つた上、座に復ると、女中も樂屋の中に入つて

『それぢや、此處に置きますよ。』

と、大きな皿に山の如く盛つた鮓飯を、隅の方に置た。

『どうぞ、宜く禮を言つて頂戴な。』

女中が出て往くと、他の弟子共は呆れたやうに清之助の顔と、鮓飯皿とを見競べるのであつた。

京城新報

暴徒鎭壓の一策

地方暴徒の跋扈蹂躙が我が勇敢なる軍隊の討伐に因れるにも拘はらず、近時益々其威を逞ふし猖獗を極めつゝあるは吾人の憤慨に堪へざる所なり、思ふに其信は未だ容易に制せず、寧ろ或は一時の風聲鶴唳にて、我が京城を襲はんとするの風説を耳に過ぎざるならんも、頃日是等暴徒の大擧せるが如きは確かに其一斑には非らざる乎。

吾人は暴徒鎭壓の一策として曩日の本欄に於て之を發表せる所あり、曰く現皇帝自ら[illegible]其の山河に行啓し、親しく地方民の苦生に近接して、其眞意の在る所を論し、其大勢の歸する所を知らしむるに若くはなしと、而して今更に又一策の胸に浮ぶものあり、請ふ吾人をして少しく左に論ずる所あらしめよ。

抑々地方無頼の暴徒が今日の如く其威を逞ふし其勢を張りて極力我に對抗する所以のものは其の原因する所種々あらんも、蓋し韓國の新政成立が其の騷擾の動機を誘致し遂に之に至らしめしものにして思ふに彼等と雖も唯徒らに根據なく擾亂を企つるものにあらず[illegible]ざるなり、否な寧ろ彼等に取りて[illegible]世を慨し國を憂ふるの念より出でたるものたるや言ふを俟たざる所なり、只彼等は不幸にして事の順逆を辨へず、大勢の推移を知らず、固執頑迷頑然として其非を悟らざるに因るのみ、故を以て今や我が皇軍が[illegible]彼等を討伐せしは固より其所にして一日も早く之が討伐の實績を擧げん事を冀ふや切なりと雖も、今吾人の愛に一策とする所は即ち之が[illegible]地方顯要の地位にある官吏及富豪族の士に檄を飛ばし京城に召集し、主上自ら之に臨御せられ、其非を論じ、其蒙を啓き、以て彼等をして其地方の暴民に對し温言其旨を告げ以て彼暴民をして大勢の適從する所を知らしむるにあり。

由來韓人の常として、其性情の脆弱にして現實を主とし、殊に事に當りて感激の情切なるものあるを以て、必ずや一度び面の當りに優渥なる皇帝の勅諚を耳にするあらば[illegible]、歸つて胸中密かに、彼等無頼の暴徒を使嗾煽動し、以て國を誤り、民を禍らんとする頑迷の徒をして、自ら其非を悟らしめ、其妄を悟り、慚愧靦面、[illegible]として状を翻はさゞるもの是れなしと雖も、而り且つ實に彼等頑迷の暴徒が以て能く今日の權を貽め、生を觸ぎ、幾功自在、巧みに我が軍を惱まし、我が治を損しめる所以のものは、是れ蓋し其背後には是等地方の官吏豪族輩の秘かに之が聲援助勢に與つて力あるものたるは火を睹るよりも瞭かなるに於てをや。

故に是れ一見不可能の策たるが如きも、決して不可能の事に非ず、期つて之が實施を圖るは其事の容易にして、且つ偉大なる功果を收むるや、毫も疑を容れざる所なり。

且つ吾人の愛に韓國將來の爲めに圖つて希望に堪へざるは上述の如く地方顯要の地位にある官吏及富豪族の輩を一年に幾回と期し、中央に召集し、以て地方の政務と民衆の狀態とを報告せしめ、而して其論ずべきは論じ、告ぐべきを告げ、常に中央と地方との融和を期し、紀綱の振肅と戮力一致、其政令の普遍とを圖るに在り、固より現下保護國の性質上其一擧手、一投足の微と雖も、之が國政の如何に關しては亦統監に諮らざるべからざるの所なれども、上下一般の意志を疏通し、以て一國の安泰と康寧とを圖らんと欲せば、須らく如上の方針に出でゝ[illegible]以て愛に附言し置くと云爾。

東京電報

▲大元帥陛下御還幸（十一月十九日發）

特別大演習御統監遊ばされたる天皇陛下には本日還幸遊ばされたり

▲海軍大演習決定（同上）

海軍部内にては明年秋季を以て海軍大演習を擧行する事に決定したり

▲俘虜收容費受領（十一月二十日發）

露國俘虜收容費四千七百五十萬圓は二十三日倫敦にて受取ることゝなれり

韓皇の詔諭

報

皇帝は日の如く天地の萬物を覆載せる四時[illegible]以て其生成の功を[illegible]を同ふせず五帝[illegible]變を知らざれば則文[illegible]て重熙累給し文[illegible]百年來民昇平に[illegible]獨り一隅を保ち[illegible]て天涯咫尺たり[illegible]時にあらず夫れ舊[illegible]ち國家を守る可[illegible]し文學は只々糟粕[illegible]すのみ百文具は[illegible]くして夫れ能く[illegible]之を思ふて此に[illegible]や民生の塗炭邦[illegible]べけんや朕斯時に[illegible]遠に滿つ大更張大[illegible]に維新の二字を[illegible]して以て我民生[illegible]て宗社に告げ一[illegible]と思ふ爾大小人民は咸く朕が意を體し亦乃の心を新にし迷滯誤解の見を開き積久固陋の習を悟り時艱を慨念して風氣を丕變し孜々汲々たれ惟ふに正德利用厚生の三事を是れ務めば民は以て富み國は以て強かるべく而して邦命は以て維れ新たなるべし若し猶不孚不悟にして舊を戀ひ新を厭へば是れ冬に霓を望みて夏に氷を思ふ也夫れ能く譴責を免れんや玆に誕告を布ゆ爾等尚恭之を聽けよ

應に行ふ所の條目あり左に開列す

一、上下一心、君臣相孚し、大に開國進取の大計を定む
一、農桑を勸め、商工を奬め、國富を開發し、立國の基礎を鞏固にす
一、紀綱を振肅し、積弊を矯救し、以て中興の偉業を昌にし、以て開國の宏謨に副ふ
一、內政を改善し、以て臣民の幸福を進め、司法制度を確定し、以て寃枉なからしむ
一、廣く人材を求め、適地に登庸す
一、教育は其華を捨て實を取るを務め、以て需用を國家緊要の途に開く

太皇帝の雲峴宮訪問

太皇帝には十九日其生家なる雲峴宮を訪問あらせらるゝ筈なりしも一日を延ばせられ昨日午前十時半大漢門御出門馬車にて警官の警衛にて布德門前より光化門前に出でられ碧洞松峴を經て校洞の雲峴宮に着御あらせられ兄君李載冕氏と對顏あらせられたり三十年來顧みられざりし生家なれば今昔の感に堪へられざる思ひあらせられしなるべし

●伊國總領事の午餐會

伊太利總領事は伊藤統監を主賓として鶴原長官鍋島書記官村田小將古谷秘書官を招待し昨日午餐會を同館に開きたるが二十六日は更に曾禰副統監石塚參與官佐竹書記官其他を招待する由

憲兵隊配置

韓國駐箚憲兵隊の擴張と共に其配置の個所を增加せられたり今其配置所を聞くに憲兵分隊は京城、平壤、天安、榮山浦、釜山、咸興の六ヶ所にして京城分隊は京畿道、江原道、黃海道の一部、伊川、登津に亘る線の南部を管轄し其分遣所は美洞、鍾洞、龍山、仁川、平山、高陽、汶山、麻田、鐵原、楊州、議政府、高安、楊根、江華島、龍湖島（海州附近）の十五ヶ所に置き一ヶ所の定員は約八名なる由也

自衛團後援會大會

西大門外獨立館に於て一昨十九日午後二時三十分より開催せり日本側よりは內田良平及び同通辨岡本某朝鮮タイムス支局の小塚虎太郎の諸氏出席せり而して本日は役員の選擧をなせしのみにて其の整理の爲め滿場一致を以て開城府軍張憲柱を假舍長に推し同人會長席に就き議事を整理せり韓人列席者の重なるものは

正一品 南奎熙　正一品 金思轍
正二品 洪承穆　從一品 成岐運
從二品 玄英運　同 李鳳復
同 李鳳來　正一品 金嘉鎭
從二品 嚴俊源　同 嚴桂益
同 梁唯唄　同 康仲漢

にして會長及び副會長の選擧は後會に讓ることゝし幹事會計のみの選擧を行ひたり其結果左の如し

幹事 東署 閔俊一
西署 鄭喬支
北署 金嘉鎭
南署 李根培
會計 禹垣鼎

而して午後四時半閉會し列席者一同に立食の饗應をなし五時半散會せり出席總會員は日韓人を合して百十八名なりし

自衛團の援護會

別項記載の如く一昨日發會式を擧げたる自衞團援護會の組織方法及び綱領は左の如し

自衞團組織方略

自衞團は政府發布の自衞團規則及內訓に遵據し地方の情狀を參酌して以て實行に便す

綱領

一、自衞團は地方有志者を以て之を各府郡面に組織し節制を所在駐屯軍及憲兵警察官に受く
一、自衞團は各自の生命財產を保護し地方の安寧を保維し匪類をして橫行潜伏の餘地なからしむるに在り
一、本團事業左の如し
一戶口を調査し出入を檢する事
二私藏の武器を收容する事
三跡を匪徒に混ずと雖も武器を獻し歸順を本團に乞ふ者は本團は官憲に乞ひ寬典を以てする事
四晝夜警逃し自衞を嚴にする事
五常に賊情を偵察し又た煽惑の徒を鬪知すれば之を官憲に報ずる事但し賊徒急發し之を官憲に告ぐるに遑あらざれば即ち本團を扞衞し以て官憲の來援を待つべし
六饑饉の餘り飢寒に瀕する無告の民を細査し共濟の道を講ずべき事

而して同會は遊說員を設け十三道を七區に分つて遊說し自衞團組織に就て充分の援助を爲さん意氣込にて第一回の遊說は約六十日間の見込なりと因に自衞團の役員は左の如し

總裁 閔泳徽　會長 張博
副會長 吳世昌　總務 尹孝定

●大韓協會總會

來廿四日開催する由

●委員會延期

仁川斗量場に關する委員會は一昨日開かるべき筈の處委員出席者少かりし爲め流會となり昨日開會せる筈

石柱院の伐討

本月十五日午前六時開城守備隊兵三十名韓兵三十名合計六十名暴徒討伐のため出發長湍郡に於て暴徒と出會し戰鬪せし狀況如左

十一月五日午前十一時長湍北方一里にある湍谷里に於て銃を携帶せる暴徒約二百名は同日午前七時頃石柱院方面に向ひ其隊長らしきもの三名は韓馬に乘りたることを探知し急行追尾し午後一時に至り石柱院に於て暴徒約百名掠奪を行ひつゝあるに會し七百米突の距離より射擊を開始し一部をして石柱院の東端に向ひ實擊を行はしむ暴徒は若干應射をなせしも我猛烈なる射擊に堪へずして北方山脈を越へて北に退却せり我は直に追擊に移り石柱院北方約一里半に至りしに遂に其蹤跡を失ひたり暴徒は退却及應戰の形況より察するに多少の戰術を解しあるものゝ如し且つ其の彈丸は七百米突の距離にありし我散兵線に到着せり我に損害なし暴徒の遺棄せる死体廿、負傷せる隊長らしきもの暴徒に扶けられて退却せるもの一、及び確に負傷せるもの五六を認めたり鹵獲品として韓馬二軍銃一、火繩銃二十八實彈藥筒數發其他衣服數十點にして遺棄せる書類等により察するに多數の舊韓兵を混じあるものと認められたり

村岡隊の暴徒討伐

水原附近金良場を襲ひ一進會員を拉し去りたること別項の如し右に付村田隊は直に討伐に向ひたり其模樣によれば十五日午後八時金良場の東方吉羅の稼室に於て賊に追及す賊は既に我隊の來るを知り小笛を鳴らして逃走を始む依て直に同村西方高地より射擊を開始せるに賊の退却に從ひ追擊したるも二千米突にして遂に賊と接觸を失し追及の見込なきを以て追擊を中止し稼室に歸還せり此戰鬪に於て賊の死體一、鹵獲品銃一負袋一、我に死傷なし射耗彈一〇一發稼室士人の言によれば是等賊は一進會員を連れ來らざりしものゝ如しと午後十一時稼室を發し十五日午前二時林院に達し約三時間半の大休止を行ひ午前五時半出發同七時陽智に達す陽智補助佐々木部長の言によれば昨日まで白岩附近にありし暴徒は十四日午前六時同地を發し白岩の西方約二里なる別味に至りしと尙一部約五十は昨日金良場に來りし者ならんと右情報は直接偵察の結果にあらず稍確實を缺くの患あるを以て部長に要求し巡檢を以て搜索をなさしむるの承諾を得既に派遣せり討伐隊より午前十二時江藤上等兵以下四名を午川方面に派遣し直接搜索をなさしめんとす情况異狀なくんば十六日討伐隊は長峴店（陽智南方約二里）泉洞（金良場南方約一里）附近の賊情を偵察しつゝ歸還せんとす（村岡隊報告）

牧溪の賊襲後報

十一月十二日午後五時暴徒約百餘名忠州郡牧溪に襲來せり同地は忠州原州間の要路にして且つ漢江上流の沿岸に位し貨物の集散多く忠淸北道中有數の市場たり秩序回復上最も必要を認め臨時警察官の分派所を設けしに其開始當日賊徒の襲擊を受け巡査三名は巡檢六名と共に防戰したるも地勢不利且衆寡支ふべからざるを以て一先忠州守備兵四十名野々部警部以下巡查五名附隨し急行出張せしに賊は既に牧溪にあらず同地を去る一里半蘇莫面に宿營せりとの情報を得翌十三日拂曉之を襲擊す約三百餘名の暴徒は狼狽を極め退却を始めたるを以て之を追擊し多大の損害を與へ原州方面に潰走せしめたり賊徒の則死卅一名傷者十六七名銃器十七挺其他雜品數點を鹵獲す我に死傷なし

暴徒益山襲來詳報

十一月十五日午前一時二十分益山派出所財津、陶山巡查は賊狀偵察中十四日午後十一時頃突然同農場に暴徒來襲し殆ど包圍せらるゝに至り財津巡查は咄嗟の間に家人を援護し屋外高地松林に避難せると同時に之を阪田方宿泊の陶山巡查に通告せしめたるに陶山巡查も亦同樣にして同家人を掩護し高地に來れるも賊は優勢なるを以て之を擊退する能はざるを認め後事を陶山巡查に托し包圍を拔けて增田警視に急報せり此時在留邦人吉川吉平行衞不明となる他は皆無事避難したるが如し此報に接し增田警視は直に守備隊及憲兵分遣所に通報し一面部下を召集し警部以下巡查十三名巡檢四名を率ひて急行す守備隊は騎兵將校以下三十名を憲兵分遣所は下士以下六名を急派せり騎兵急馳して同地に着したるとき賊は既に高山方面に逃走したるを探知し一箇分隊を殘留して警戒せり當時在留の日本人は九名にして砂川屯に避難せる一名の外は皆無事歸來せり騎兵到着後賊の死屍一を殘せるを發見したり遺棄せる金品等若干は全州警務署に保管し居れり追擊騎兵は何れも蹤跡を失ひたれば一先づ引揚げ在留邦人も十五日全部大場村に引揚げたり

一進會員を拉去す

十一月十三日水原郡金良場に暴徒約五十名襲來一進會員の家屋一戶を燒拂ひ同會員二名を拉去せり村岡討伐隊は稼室に追及して射擊を加ふ敵は屍体一、銃一、負傷一を遺棄し四散潰走せり我に死傷なしこれより先同隊は金良場東方約一里の地點に於て暴徒の斥候一名を捕へ之を斬殺せり

●行衛不明巡查無事

十一月十七日全羅北道部安分派所賊襲の際行衞不明の石井巡查は無事なりしと判明せり

●桑港の暴徒

アメリカ印刷會社に屬する職工の一團は過る十三日在桑港我和歌山縣人東某の所有なる玉突場を襲ひ狼藉を極めたり鎭撫の爲め出張したる十數名の警察官も亦暴徒と行動を共にしたりと云ふ

列車の脫線頻々

十九日午後草梁發急行列車新洞（大邱附近）驛に入らんとするとき客車三臺脫線し車体に破損を生じたるも乘客は無事なりしと

●昨年中の郵便爲替及貯金

昨年中韓國內に於ける郵便爲替及貯金の取扱高を聞くに郵便爲替振出口數四十八萬千二百十一通金額千六十六萬八千三百六十三圓九十六錢六厘、拂渡口數十八萬四千六百二十八通金額六百三十一萬二千三百三十三圓六十四錢八厘なり貯金は預入百四十五萬七千二百三十一圓九十三錢、拂戾九十五萬七千八百九十一圓八十三錢七厘なり

市原氏の演說に就て

來る廿三日開催せらるべき經濟協會十一月例會に於て第一銀行の市原盛宏氏が『殖民地の金融機關に就て』の題下に一場の演說をせらるべきことは昨紙報道せし通なるが右に付昨今市中にては市原氏が目下設立準備中なりとの噂ある韓國拓殖銀行の成立を妨害せんが爲め反對演說をなすならん杯取沙汰する者ある由なるが右は甚だ謂れなきことにて市原氏にとり甚迷惑次第の事と云ふべし

●鹽川事務官出京

大邱觀察府事務官鹽川一太郎氏は事務打合せのため本日出京統監府に出頭せり

●遠藤技師の轉任

稅關工事部主任遠藤技師は此程釜山稅關工事部主任に轉任せることゝなりしが其後任としては從來木浦支署長たりしホフツキレ氏今明日の中に來任すべしといふ因に遠藤技師の赴任期日は來月上旬の由

●新原氏の寄附

新原脩一郎氏は曩きに仁川埋築會社檢查役を委任されたるが其報酬金十圓を仁川慈善會に寄附したり

●平安丸の積荷

昨日仁川に入港したる安平丸は阪神より雜貨千百噸を積載して入港せしより直ちに全部陸揚せしが歸航の際は大豆一万四千叺白米三千四百叺を積込む由因に同船は定期寄港以外の尼之瀧に寄港するとの事なり

●木曾川丸の積荷

木曾川丸は本日仁川港を出帆する豫定なるが昨日迄の積荷申込は白米千五百叺清酒六十樽其他雜貨若干也

●鴨綠の薄氷

先頭の天候一變し昨今全く滿洲的寒さとなり當地名物たる鴨綠の結氷も間際にあるが十七日朝は前夜來の寒氣強かりしため新義州側北向の沿岸は一帶に氷を結び往來の船舶及び連絡船等は氷に詰められ大に困難せし模樣なりしと先づ此期結氷の初めなりと云ふ

▲治外法權▼

暴徒は朝鮮ばかりの名物でなくてカリホルニヤの名物でもある、今度再撰せられた結構な桑港市長に居留邦人の代表者が再撰祝辭を述べ居る間に暴徒の一群は又々一邦人の家宅を襲擊し狼藉を極めたソウである、只に暴徒のみでも恕すべきではないが警察官まで棒組では尙更恕することは出來ぬ△一体日米の關係が今後ドウなるかは一大疑問である、此大疑問に逢着したる我々は實に不幸の限りであるが併しドウでも解決せねばならぬ△世人動もすれば外務省の無策を責める外務省に何の罪がある、世人動もすれば靑木大使を罵しる靑木大使何の罪がある、責むべきは米國國務省の無策であつて罵しるべきは大統領の無能である、問題の小なる中こそ外務省攻擊も良からふ、而し今はソンナ無意義な事をして居る時ではない△ペルリが五十年前に吾邦に渡來したのは事實である又日米の國交が過去五十年間親善であつたのも事實である、邦人常に口にすらく以上の事實を記臆するところの兩國民は未來永劫親善なるべしと、併し米人はソウ思つては居らぬ樣である△邦人がペルリや五十年の親善を繰返し居る間にイウアンスの艦隊は太平洋に現れんとして居る、ドウモ油斷のならぬは米人の所作である、こんな調子で行くときには他日砲火相見ゆることがないとも限らぬ、其時ペルリが吾味方でないこと丈は記臆して居る必要がある。

特別廣告

植字工丸山兵吉君に告ぐ

君が予及諸同人に負へる義務に對し曾てタイムス社在社當時予等に寄せたる文面の通り至急其契約を實行せらるべき也。若し然らざるに於ては予等諸同人は恰當と信ずる處置に出づべし敢て告ぐ

十一月二十日

京城新報社內 高木久馬太

今般生等相圖り在京の四條派の巨臂蜻洲溟夫淸水東雲畫伯の繪畫展覽會を開催し落莫眠れるが如き美術界に警醒を與へ兼ねて同氏の作物を世に紹介致度候間普ねく同好諸氏の御贊同を得度候

一名稱 東雲畫會
一會場 新築京城民團役所樓上
一期日 十一月廿四日(日曜日)午前十時
一會費 金三圓(當日御持參被下度候)

尙餘興として抽籤法に依り陳列繪畫の福引を行ひ其全部を會員に配呈可致候

十一月廿一日

發起者 熊谷賴太郎 東野良太 久本吉次 西山哲三郎

各位

京城樂友會演奏順序

同會第三回演奏順序の一日分は前號に記せしが第二三日の順序は左の如し

第二日

第一部

行進曲(凱旋軍)
尺八(千鳥の曲)
ブァイオリン獨奏(五月の夜)
淨瑠璃(菅原傳授手習鑑) 糸
琴曲(喇叭の曲)
觀世流仕舞(船辨慶)
橘流筑前琵琶(大將宮)
八雲琴合奏(御所車)
オルガン獨唱(離れ小島)
長唄(越後獅子)

陸軍軍樂隊 稻本政月 淺井秋水 竹本彌昇 竹本昇鳳 豐澤糸玉 中管道雄 中川五昇 玉井南軒 澤田雪子 小田初子 日下部國子 加藤淸子 松島春風 陸軍軍樂隊

休憩

第二部

三曲合奏(段六の調) 尺八 八雲琴 琴
舞踏 外國武官 洋裝婦人 ビール 洋裝少女 高襟紳士 看護婦 海軍武官 女學生
淨瑠璃(岸の姬松)
二曲合奏(萬歲) 須磨琴 一節切
筑前琵琶(宇治川)
二部合奏(新八千代) ブァイオリン
觀世流謠曲獨吟(蟬丸) 同

中管道雄 加藤淸子 多治比松琴 南山狐兒郎 吉川靜波 磐石坊 喜久川龍歌 關守天狗 玉野秋月 眞弓寒竹 吉岡茶坊 豐竹光千雄 三宅民子 某會員 井上千代子 淺井秋水 大塲春晴 中川五星

餘興 劍舞、院齋流居合、西洋手品

獨乙喜劇(放心家)登場者

一幕三場 第一場 梶野少佐邸 第二場 同暗室 第三場 女夫瀧

陸軍少佐梶野猛 池田春月
同令孃百合子 淺井秋水
陸軍大尉藥山健三 山路花川
同 息 春雄 西山花葉
百合子兄 勇 小野荒天

第三日

第一部

行進曲(親愛なる友)
八雲琴合奏(出雲指)
橘流筑前琵琶(太田道灌)
琴曲(楓の曲)
觀世流謠曲獨吟(鉢木)
ブァイオリン獨奏(龍騎兵劇の序)
淨瑠璃(梅野由兵衛)
尺八連管(八千代獅子)
觀世流仕舞(熊野)
長唄(安宅の松)

陸軍軍樂隊 澤田雪子 加藤淸子 多治比松琴 玉井南軒 中管道雄 中川五星 淺井秋水 豐竹光千雄 山野靜風 外一名 多治比松琴 陸軍軍樂隊

休憩

第二部

琴曲(明治松竹梅)
舞踏 外國武官 洋裝婦人 ビール 洋裝少女 高襟紳士 看護婦 海軍武官 女學生
筑前琵琶(海洋島)
二曲合奏(白拍子) 須磨琴 一節切
オルガン獨唱(處世の歌)
寶生流謠曲獨吟(笹の段)
淨瑠璃(大功記十段目尼崎) 糸

中管道雄 南山狐兒郎 吉川靜波 磐石坊 喜久川瀧歌 關守天狗 王野秋月 眞弓寒竹 吉岡茶坊 井上千代子 三宅民子 某會員 松島春風 伊藤松月 竹本彌昇 豐澤糸玉

餘興 劍舞、院齋流居合、西洋手品

金色夜叉 閒貫一宅の場 一幕
紅葉山人之著

登場者
法學士荒尾讓介 池田春月
高利貸閒貫一 西山花葉
唯繼夫人高山宮 小野荒天
貫一傭婆 た豐 玉井南軒
女高利貸赤樫滿枝 淺井秋水

●博覽會各館の賣却 博覽會閉會したるに就ては博覽會のために特に新築したる四館及陳列棚は便宜賣却する由にて希望の方は壽町日田組に申込まるべしと

●東雲畫會 畫家淸水東雲氏は熊谷民團長其他有志者の贊同を得來る二十四日午前十時より民團役所樓上に於て展覽會を開く筈なり何れも會費は三圓にて陳列の畫は抽籤を以て會員に頒つと云ふ陳列の畫中には博覽會にて二等賞を得たる猛虎の大幅其他勅題社頭の松及び申の年に因める畫等多數なる由なれば當日は盛會なるべし

●曙町の血まみれ騷き 一昨十九日の夜當地曙町に日韓人が群集して喧々囂々言つて居るから何事かと覗いて見ると大喧嘩があつたとのこと其の仔細を尋ぬれば永樂町二丁目の鍛冶職福岡縣平民鍛冶松次郎(三十)が自宅に於て二人の友人と一杯傾け微醉機嫌で三人同道にて漂然と出掛け豫ねて懇意にせる曙町の土木受負業兵庫縣平民久森增太郎方へ立ち寄ると能い所へ來た幸ひ肴があるとて酒の爛を命じる松次郎の連の二人は初めて來て饗應を受るのは氣の毒だといつてビール半打を買つて來て夫れより四人が車座になつて大白を擧げて飮むのはよかつたが松次郎が醉うて飯臺に凭れると飯臺がひつくりかへつて酒や肴が散亂したるを增太郎は醉眼に睨めて嚇つと怒り已れ松奴何しに來たのだ亂暴爲さんとして來たのであらうと言ひさま取つてかゝれば此方も負けず已れ猪口才なと二人が組打を始めたるを松次郎の同行者は見るより有合ふビール瓶を增太郎へ投げつけいよ〳〵喧嘩に花が咲いて總立廻りとなつて騷ぐ所へ又何者とも知れず今度は松次郎へビール瓶を投げつけたり此れが爲めに增太郎は頭部に負傷し松次郎は額部に負傷し鮮血淋漓として迸り唄ひ春めく酒の座は俄かに變じて唐紅の紅葉散り敷く慘憺たる光景を呈したる所へ巡回の巡査が來つて兩名を大韓病院に連れ行き診察せしめたるに增太郎の傷は二週間松次郎の創は三週間を經ざれば治癒せざるべしとのことなり爰にまた松次郎の同行者二人は巡査の來る前に外出せしが巡査が負傷者を連れて病院に至りし留守中に一尺八寸許りの太刀を引つ提げ來り障子柱のきらひなく伐りつけ叩き破り亂暴狼藉を極めつゝある所へ又も巡査來り其の刀は難なくもぎ取りしが兇行者は群集の中に紛れ込んで其のまゝ姿を隱くしたり其後聞く所によれば昨日午後四時頃此二人は逮捕せられし由なれば次號に後報を掲ぐべし

●日淸人の組打 兵庫縣津名郡由良町平民當時龍山櫻町一丁目寄留新島榮三郎(二十)は平素雞の行商を營み居るものなるが昨日は豫て儲けし懷のチョッコン暖かなりし爲めか朝ツパラから景氣好く大枚韓貨三文を抛つて朝鮮の濁酒をあほりつけホロ醉機嫌にて京城に來り日本の色男は斯んなものだといふ所を見せやらんとツマラヌ所に理窟を附け南大門通裏のカルボ屋に行き馬鹿を言ひながら素見かし歩く中能く目を開けて見ればよきに醉眼朦朧是もカルボ屋かと思ひ過つて支那人の家に上り込みしに內より廿五六のチャン〳〵出で來り人の家にナゼ無斷で上るかと責めしにナニ、チャン〳〵の癖に生意氣な以後の見せしめ斯うして吳れんとトンダ所に大和魂をかつぎ出し爰に一場の日淸組打ちの場を演せしに近所の支那人此有樣を見五六人寄つて群つて榮三郎を毆打しけるに流石の同人も今は散々の目に逢はされ口惜しき齒咬みをなし居る際支那の巡査の通り掛りたれば是れ幸ひと救けを乞ひけるに助くる所の騷ぎにあらず却つて四名の巡査其場に來りて先方に加勢し一緒になりて同人を亂打しけるが結局我が巡査出張し譯を聞きて双方を鎭めしとソレにしても不都合極まるは支那巡査の擧動なるべし

●夫に觸さる 男心と秋の空、引當になるも知りながら吾夫鶴松どのに限りてよもやと思つたが大の不覺でした私は旭町二丁目に棲んで居る國重キクと申す者で夫は建築請負業をする國重鶴松とて人樣にも多少顏を知られた者ですが先き頃より龍山に請負事業があつて同地元町の二丁目中島ヤスといふ內に滯在して居る內に何方が手を出したか二人の間が穩くない仲となつて我家へは用事がなければ歸つて來ず偶に歸り來つても直ぐに出て行くといふ始末なので私も腹立つまゝに一二度八釜しく申したが今朝歸つて來てヤスとは手を切つたから安心せよとのことに私も大に安堵して二日分の給料をはづんで酒を買うて二人が差向ひで飮みました夫れから夫鶴松は龍山へ行き私は例の通り博覽會へ出勤致しましたけれど博覽會は十五日に閉會致しましたけれども出品人の物品引取がまだ濟ないものですから看守は矢張五時迄出勤するのです夫れで五時に自宅に歸つて見ると戶の錠前が外れて居り內に入つて見れば衣類を納れたる行李が無いものですから愕いて近隣の人に尋ねますと留守中に戀ひたですよ鶴松が淫賣女のヤスを連れて來て二人で持ち去つたとのことです私は大事な男を取られた上に衣類まで取られたと思へば悔しくて〳〵なりませんドーカ淫賣女を罪に落して衣類を戾るやうに……イーエ鶴松だけは助かるやうにお願ひ致しますと額に角の生ねたらんがやうに憤怒の相を顯はし泣く〳〵警察署に訴へ出でたる有樣を見て來た生より投書のまゝあら〳〵かしく

●人の妻を盜んだを種に恐喝取財 京城刀子洞八十六統十一戶飮食店福岡縣平民藤野榮吉(四二)永登浦射的業和歌山縣平民山本伊之助(三十)の兩名は韓人慶錫恩なる者の妻を韓人崔仲完の男崔姓民が橫奪して妻となし居るを聞知し慶錫恩、梁東湝、金色持閔甲折と共に崔を恐喝し財物を騙取せんとを謀議し去る八月十一日夜六名相携へて京畿道廣州郡京安面胎田里なる崔の宅に至り金色持、閔甲折は巡査榮吉、伊之助の兩名は憲兵なりと詐稱し崔父子を京城に連れ歸るといひて同所より約一里計り距りたる地名不詳の場所に連れ來り旅宿に於て十三日頃崔父子に對し何故へ人の妻を取つたか泥棒見た樣な者であるから警察署に願ふて監獄に入てやると恐喝し崔父子が畏怖して左樣な事をせられては困る故金を出すから濟ませ吳れよといふに及び金五百圓を崔より差出さしむることゝし崔仲完より牛四頭及び金四百圓は陰曆七月十五日に支拂ふべき旨を認めたる證書及び擔保として文券九通を受取りたること其の筋の耳に入り恐喝取財犯として牢獄に投せられたり

●た女二ツ 本町三丁目の靑物商京都府平民奧田傳吉(二十)は店先へ蜜柑四箱外四品を排列し通行人の妨害を爲したるにより科料金三十錢を▲同町人力車挽子廣島縣平民仁奈嘉郞は牛馬及び諸車通行禁止の規則を犯し客を乘せ人力車を挽き入れたるにより科料金二十錢に何れも處分せられたり

●本町座本日の狂言 本町座の北村劇は昨夜はクチャガルを演ずる筈なりしも不如歸と替り大喝采を博したるが本夜の藝題は「大喝采」と極り共役割は左の通りなり

久貝家女中た松(井上)馬丁宗吉(新田)藝妓光太(西本)紳士埼東(大島)師匠辰枝(桂)久貝夫人加奈子(橫山)法學生宮田保(吉岡)仲居た花(谷)下男勢子衛門(中澤)久貝左近(保岡)藝妓小光(小泉)淨瑠璃師匠鳴太夫(靑木)花目客秋村(北村)姪秀代(三井)久貝令孃包子(三國)陸軍少佐久貝市之丞(三木)久貝副官(淸水)呉服屋大和屋(森)從卒小西三造(北村)